

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470501392
法人名	合資会社 三重福祉会
事業所名	安東苑
所在地 (電話番号)	津市安東町2004 (電話) 059-246-8246
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 20 日(火)

## 【情報提供票より】 (H20年4月15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 9.5人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000~48,000 円	その他の経費(月額)	12,000~15,000 円	
敷 金	有( 円) <b>無</b>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> ( 120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<b>有</b> / 無 5年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	200 円
	または1日当たり(朝食・昼食・夕食) 900円			

### (4)利用者の概要( 4 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名	
要介護1	5 名	要介護2	2 名			
要介護3	7 名	要介護4	4 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	79.6 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院 伊勢谷病院 駒田歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧津市西郊の田園地に位置し、本館と新館の2ユニットのグループホームである。運営者以下全職員は「人生の半分は自分のため、後の半分は社会のため」の理念を共有し、一人ひとりが実践目標を掲げ利用者の支援に取り組んでおり、利用者共々生き生きとした表情で笑顔あふれる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自治会への加入、事業所行事への参加案内、運営推進会議の開催等全員で検討し改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者以下評価の意義を充分理解している。自己評価は全員が参画しサービスの質向上、業務改善の一助としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年は利用者及び家族代表、自治会長の出席のもと、3回(4ヵ月ごと)開催され、運営推進会議の目的、評価への取り組み、地域への働きかけ等話し合われている。今後はより地域の理解と支援を得る機会として、地域の民生委員、老人会代表、地域包括支援センターや市の担当職員等幅広い立場の方々の参加と、2ヶ月に1回程度の開催を期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来苑時に、気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。受けた意見、要望は日々の申し送りや職員会議で取り上げ対処している。また、昨年8月に家族向けアンケートを実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元自治会に加入し、ごみ集積所の掃除当番を利用者共々と担当し、今年からは地区の防災訓練にも参加することになった。また、近隣の方々には事業所の夏祭りのイベント等に参加してもらい、地元住民との交流を深めつつある。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「人生の半分は自分のため、あとの半分は社会のため」をベースに管理者以下全員が一人ひとりの実践目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや月例会議で話し合っている。また、理念を玄関、廊下、居間等に掲示すると共に、広報誌にも掲げ、利用者はもとより家族、地域の方々に周知されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、ごみ集積所の掃除当番を利用者共々と担当し、今年からは地区の防災訓練にも参加することになった。また、近隣の方々には事業所の夏祭りのイベント等に参加してもらい、地元住民との交流を深めつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者以下評価の意義を充分理解している。自己評価は全員が参画しサービスの質向上、業務改善の一助としている。また、昨年の外部評価の課題項目についても全員で検討取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は利用者及び家族代表、自治会長の出席のもと、3回(4ヵ月ごと)開催され、運営推進会議の目的、評価への取り組み、地域への働きかけ等話し合われている。	○	今後は、より地域の理解と支援を得る機会として、地域の民生委員、老人会代表、地域包括支援センターや市の担当職員等幅広い立場の方々の参加と、2ヶ月に1回程度の開催を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者(兼管理者)は市の介護保険課職員と機会を見つけては情報交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通常は家族面会時に職員が本人のスナップ写真を提示して生活ぶり等報告している。急を要する時は電話で報告している。また、事業所の納涼大会、コンサート、文化祭等催事の都度案内状を送付し、家族の方々の来苑を促し報告する機会にもしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来苑時に、気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。受けた意見、要望は日々の申し送りや職員会議で取り上げ対処している。また、昨年8月に家族向けアンケートを実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	苑長、管理者は職員との意見交換を大切にして、働き甲斐のある職場作りを心掛け、離職を最小限に抑えている。また、職員は利用者全員と馴染む態勢で臨んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県やグループホーム連絡協議会等の講習会に職員も含め適宜参加している。それらの研修報告は定例の職員会議で行なっている。また、運営者は各種資格取得等自己啓発を推奨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他地区のグループホーム職員との意見交換会やグループホーム連絡協議会の講習会、見学会、報告会等に参加し交流の輪を広げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談段階で管理者、計画作成担当者が自宅を訪問したり、本人と家族に事業所を見学してもらい信頼関係を築いている。また、利用開始時は職員、家族と話し合い安心感をもって利用できる雰囲気作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者から山菜の煮方や畑の畝作りを教わったり、戦時中の話を聞いたり、或いは折り紙や古い歌詞を教えあったり和気藹々とした雰囲気接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメント記録や日々の暮らしから生活歴や経験並びに意向の把握に努め、利用者は趣味を生かした生活等、本人のペースで過ごしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や、職員の日々の申し送り、会議での意見交換をもとに日々の課題を探り出し介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直している。また、利用者の状態に応じては、本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は通院、一時帰宅、墓参り、ショッピング等への送迎をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診を継続すると共に、事業所の協力医とも連携し内科医には月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところターミナルケアまでは予定していないが、契約時から本人、家族と重度化した場合の要望や事業所でできること、できないこと等対応を話し合っている。また、状態に変化があれば、本人や家族の意向を聞きながら協力医を交え支援について話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は態度、言葉かけ等意識を持って接しており、また外来者への対応や個人記録等書類の取扱いには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調に配慮して、その時々本人の気持ちを尊重し対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や旬の食材を取り入れた献立が計画され味付け、盛り付け、後片付け等利用者と職員が一緒に行なっている。また、職員も同じテーブルを囲み、話しかけをして和やかな雰囲気ですべてしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前から順次入浴できる態勢になっている。また、菖蒲湯やゆず湯で季節感を楽しんでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は日常洗濯物干し、掃除、ごみだし、畑仕事、食事の準備や後片付け等役割を分担したり、カラオケ、将棋、マージャン等を楽しんでいる。また、バス旅行、運動会、コンサート、文化祭等の事業所の行事を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	構内での畑仕事、日光浴や近隣へ散歩に出掛けている。また、時には車での行楽、ショッピングに出掛けたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は拘束のない介助を申し合わせており、居室はもとより日中玄関は無施錠である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は防災避難訓練を2回実施している。今年はず5月末に予定している。また、6月に行なわれる自治会の防災訓練に参加することになり、地域住民との絆を築きつつある。	○	防災マニュアル、緊急連絡網を再確認し全職員に周知徹底されると共に夜間の災害を想定した避難誘導訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は適宜栄養士のアドバイスも得て栄養バランスに配慮している。一人ひとりの食事はチェック表に記録し、体重の変化にも気を配っている。また、希望者にはペットボトルにお茶を準備し水分補給に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が広くて明るく、台所、食堂と一体になっている居間は移動式畳台を置き、使い勝手に配慮している。また、生け花が飾られ、壁にはスナップ写真や貼り絵、カレンダーなど作品が掲示されている。更に、ユニット間の渡り廊下には屋外ベンチを配し、庭や畑へ自由に出入りが出来るようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた置き棚、飾り物、日用品等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		